

今号では「原因の従属節」(Cláusula Causal)を見ていきます。原因・理由を表す表現は従属文の中で最も基本的なものです。スペイン語を覚えている幼児は複文の中でも早期にこれを習得するようです。ある研究によると原因のporque～は4歳ごろに習得するが、para que～(目的)、si～(条件)、aunque～(譲歩)などはずっと後になって覚えるそうです。読者のみなさんは幼児としてスペイン語を学んでいるわけではありませんが、原因文は中級者が早い段階で学ぶべき文法項目であることは間違いなさそうです。

それでは具体的な原因節の説明に入っていきます。何とんでも原因の接続詞の代表は先ほども挙げたporqueです。

He comprendido muy bien la lección de hoy porque la profesora nos la ha explicado estupendamente.

今日のレッスンはよく理解できた。先生が見事に説明したので。

ただし、porque～の文は通常、複文の後半部にしか来ません。

×Porque la profesora nos la ha explicado estupendamente, he comprendido muy bien la lección de hoy.

ただし、質問に答える場合はもちろん文頭に來ます。

¿Por qué no viniste a la fiesta de mi cumpleaños?

なぜ昨日私の誕生日パーティに来なかったの?

Porque tenía que cuidar a una niña.

子どもの世話をしないとイケなかったの。

この場合でもporqueの前に“*No pude ir a la fiesta de tu cumpleaños*”が省略されていると考えることができますので、結局はporqueの節は後半に來ていることとなります。

porなしでqueだけで軽く理由を表すこともできます。

Vísteme despacio, que tengo prisa.

ゆっくり服を着せてくれ。急いでいるので。

これは日本語の「急がば回れ」に相当する諺です。

次に原因を表すpuesです。現代語では通常、複文の後半にしか来ません。

¡No te rías, pues no se trata de ninguna broma!

笑うなよ。全然冗談じゃないんで。

続いて「～ので」を意味するcomoを取り上げます。comoは用法が多様な語ですが、原因のcomoとしては2つの大きな特徴があります。「como + 直説法」となることとcomo～の節が必ず前半に來るということです。porque～の場合は、原則として後置でしたのでちょうど反対の現象です。porque～とcomo～は、同じ原因節といっても意味も少し異なるのでこの2つを対比してみましょう。

Como siempre llegas tarde, me enfado contigo.

君はいつも遅刻するので僕は怒っているよ。

Me enfado contigo porque siempre llegas tarde.

僕は怒っているよ。なぜなら、君がいつも遅刻するからだ。

como～は後半で表現される内容の「前提」となっており、文全体のより重要な部分は後半部にあると言えるでしょう。君はいつも遅刻するので… → 怒っているよ!

一方、porque～はよりはっきり理由を表しています。こちらの場合は、porque～の節の方が全体の文でより重要な感じがします。僕が怒っているのは… → 君がいつも遅刻するからだ!

ちなみにcomo～が複文の前半に來た場合で動詞が接続法であれば、条件節を疑ってみましょう。

Como llegues tarde de nuevo, me enfadaré contigo.

もし君はまた遅刻するなら僕は怒るよ。

comoに近いニュアンスを持つものにya queがあります。「～ので、～であるから」を意味します。

Ya que últimamente los días son largos, en mi familia cenamos tarde, a eso de las 10:00.

最近、日が長いので、うちの家族では遅く、だいたい10時ごろに晩御飯にする。

その他、dado que～、puesto que～などもya que～によく似た機能があります。これらは「過去分詞+que」から成っています。つまり、元々は「que～が与えられると、想定されると」に由来します。例を見ておきましょう。

Puesto que el partido gubernamental no obtuvo la mayoría absoluta, formó gobierno de coalición.

与党は絶対過半数を取らなかったのて連立政権を樹立した。

原因を表す接続詞句は他にもいろいろあります。

La obra quedó paralizada a causa de que hubo protestas de los vecinos. 工事は隣人の抗議があったために中断した。

No he podido hacer nada esta tarde debido a que mi ordenador está afectado por el virus informático.

パソコンがウイルスに感染したせいで今日の午後は何もできなかった。

La venta de nuestro producto se ha duplicado gracias a que una actriz famosa lo usa.

ある有名女優が使ってくれるお陰で我々の製品は売上倍増した。

最後にporque節の内容が否定された構文を見てみましょう。例えば、

Pedro no trabaja porque esté enfermo, (sino porque es vago).

ペドロは病気だから働かないのではない(怠け者だからだ)。

否定のnoは複文全体を否定しています(noの射程がporque esté enfermoにまで及んでいます)。そして、porque以下の節内の動詞は接続法(esté)にしなければなりません。

porque以下が否定されていることを強調する場合、次のようにします。

Pedro no trabaja, no porque esté enfermo, (sino porque es vago).

つまり、trabajaの後でコンマを置くことによっていったん文を終わる(noの射程も終わる)のです。そして再度noをporqueの前に付けます。後続の節内はやはり接続法になります。

一見簡単に見える原因文もいろいろ考えてゆくと奥が深いことがわかったことでしょう。¡Hasta la vista!



仲井 邦佳 なかいくによし / Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。専門はスペイン語学。著書に『はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語一文法と演習』(共著、同友社)などがある。